

東京大学デジタルアーカイブズ構築事業



— 学術資産等の公開と活用 —

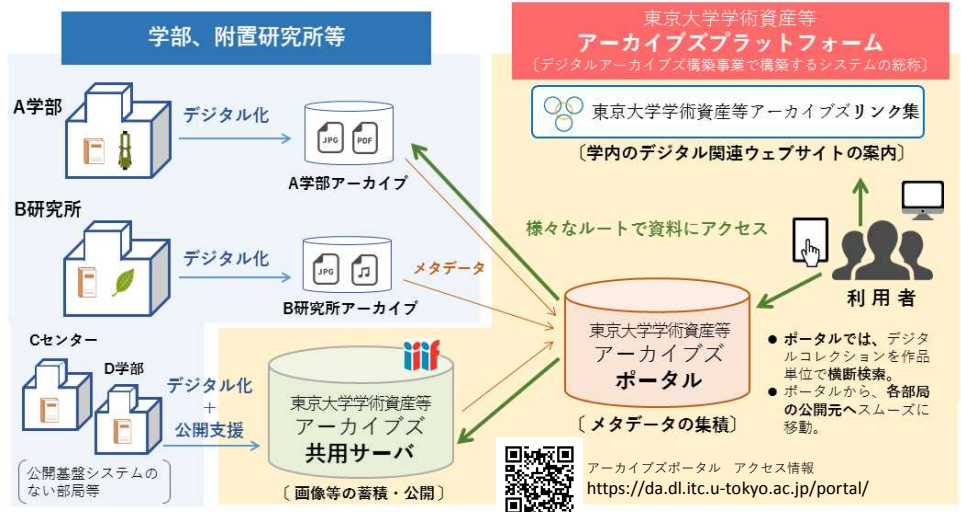
東京大学学術資産等アーカイブズ委員会

〔2019年9月2日(月)
データ活用社会創成シンポジウム〕

事業の概要



「東京大学ビジョン2020」に基づき、学術の多様性を支える基盤の強化を図ることを目的として、本学で所有する学術資産等のアーカイブズの構築・活用を促進する「東京大学デジタルアーカイブズ構築事業」を2017年度から実施(事業推進部局: 附属図書館・総合研究博物館・文書館・情報基盤センター)。
本事業では、公募によるデジタル化予算の配分、画像の公開支援、アーカイブズポータル構築・運用、公開データの活用促進などを実施。



活用事例1 学外機関とのデータ共有 ～ IIFの活用 ～



学外機関 → 東京大学
国文学研究資料館が推進する「日本語の歴史的典籍の国際共同研究ネットワーク構築計画」によりデジタル化され、国文研から公開されている資料を、東大のアーカイブズポータルへ取り込み。

東京大学 → 学外機関
京都大学図書館機構と慶應義塾大学メディアセンターが実施している、各大学が分散して所蔵する「富士川文庫」のWeb上での統合プロジェクトに東京大学もデータを提供。

【データをもっと使いやすく】

- 公開データの活用促進の一環として、総合図書館を中心に画像データ等のオープン化を実施。
- 著作権保護期間が満了した自館所蔵資料の画像データ等 → **利用目的を問わず、特段の手続きなく利用することが可能** (クリエイティブ・コモンズ・ライセンスCC BY相当の条件)。
- 各部署、総合図書館以外の図書館でもオープンデータ化が進む。
 - ✓ 文書館デジタル・アーカイブ
 - ✓ 情報学環 Digital Cultural Heritage の一部
 - ✓ 柏図書館 平賀謙デジタルアーカイブ
 - ✓ 法学部法制史資料室所蔵コレクション
 - ✓ 明治新聞雑誌文庫 宮武外骨蒐集資料
 - ✓ 農学生命科学図書館デジタルアーカイブ
 - ✓ 教育学部図書室 富士川文庫 ほか



IIF (International Image Interoperability Framework・トリプルアイエフ)とは画像データ等の相互運用性とアクセス性を向上させる国際的な規格。近年、国内外の図書館や博物館が公開するデジタルアーカイブで多く採用されています。

活用事例2 デジタル化された学術資産のデータ活用

